DENSO

3 月度 例会 個人 山 行 報 告 書

報告者	神戸	参 加 メンバー	講師 ： 神戸、竹内(OB)、亀山(OB)、小田、江嵜、鈴木（芳）、藤本、上田、鈴木（美）
報告日	4／13		

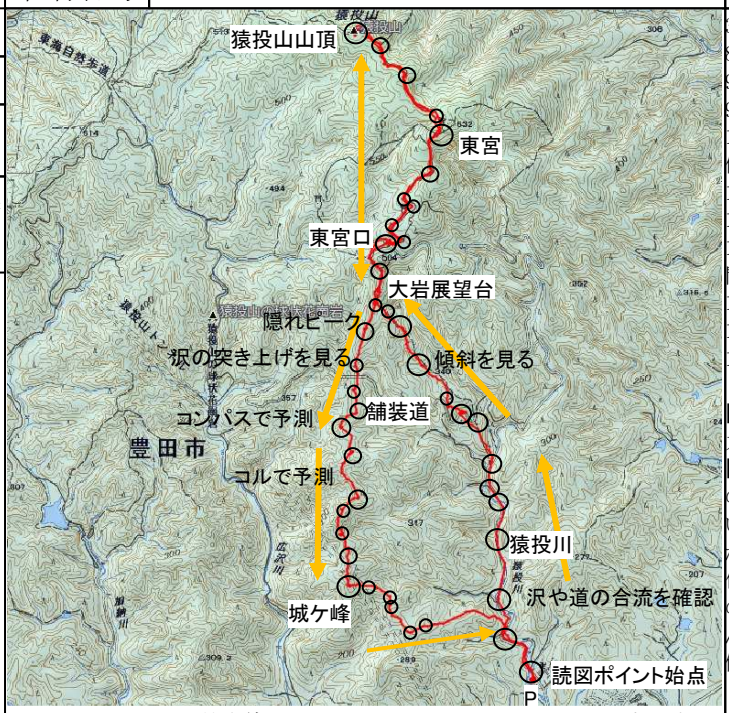
山 域	愛知県　尾三境	山行日	17 年 3 月 19 日（日）
山 名	猿投山		
山行目的	県民登山教室(猿投山コース)の展開		

配布先

集会:12

山行: 1
ﾘｰﾀﾞｰ

原 紙：集会担当者



コースタイム（天候：天気図記号）

3/19(日)晴れ
8:30 開会、駐車場でコンパス訓練
9:10 読図講習スタート
9:45 林道出合で休憩
10:30 武田道分岐、大岩展望台で休憩
10:40-55 東宮口 休憩
11:35-55 猿投山山頂
12:35 武田道分岐で読図講習再開
13:50-14:00 城ケ峰
14:30 猿投川沿いに戻る
14:40 駐車場閉会解散

【目的】実地訓練で、各人の読図能力を向上させる
【概要】新人も多く参加してもらったので自己紹介の後、コンパスの使い方を駐車場で練習した。駐車場から地形図拡大図(読図ポイント○付き)を用いて、各人が各ポイントでの地形や人工物の特徴を捉えて進んだ。難しいのは人工物のない、傾斜が変わるポイント、周囲の地形を捉えて現在地把握する処だった。前回は愛岳で教わった通りポイントを指定していたが、実は10,11 あたり間違っていたことが判明。頼りない講師である。前半はほぼ新人の方には理解してもらって進み、頂上の希望があったので登頂。帰り道は武田道で地図読みしながら進んで、元の林道に戻った。
【参加者感想】猿投山は、自分の家から最も近い山で、車で15分もあれば登山駐車場に行けるので、登った回数は、何十回も登っている山です。今回の地図読み教室でコンパスの使い方、地図の等高線での地形の読み方、現在の位置、これから進むべき方向を考えながら山行しました。駐車場でのコンパスの使い方はとてもよくわかりました。(感動)前半の登山道が記されているときの現在位置の予想はまずまず分かりました。{左下へ}

しかし、後半の地図の等高線の形状のみでの位置確認は、まだまだ不安な感じで、尾根と谷のどっちがどっちかが判らず苦労しました。地図を見ながら登る山行報告が

(山行報告)

図読みをおさらいしたいと思います。指導していただいた神戸さんをはじめ先輩方、ありがとうございました。(鈴木(芳))　今までは自分が今どこにいるだとか先の地形を予想したりせず看板通りだったり、ベテランの方に先導してもらって自分は何も考えずただついて行っていたので、今回の山行は地図の見方、コンパスの使い方を教えていただき自分のいる位置や先の地形を予想しながら登ることができとても勉強になりました。またいつもは注目していなかった周りの尾根や谷を意識して登ったりいつもとは違う山登りの楽しみ方を知れて良かったです。今回教えていただいたことの復習として自分でも地図とコンパスを持って読図山行をやってみたいと思います。(鈴木(美))　登山を始めて3年になりますが、アルプスへ行くときには毎回山岳地図を用意していましたし、山行中にはすぐに広げられるように準備して事あるごとに広げてはよく使用していました。しかし、登山道やコースタイム、危険な箇所を把握するために使うだけで、地図の作成者が親切に提示してくれている情報以上のものを積極的に得ようとすることはなく、そのすべも知らなかったのでした。これから始めたいと思っている雪山登山や、登山の活動の幅の拡大のためには読図の知識が必要だと感じていたところだったので、ちょうどよい機会だと思って今回の登山教室に参加させていただきました。　山行の前半は登山道を歩きながら地図の登山道上に記載されたチェックポイントを探す訓練を実施したのですが、その時のことが最も印象深かったです。最初は分岐や道沿いの川を手掛かりにできる簡単なチェックポイントでしたが、次第に難易度が高くなり、地図上に何の手掛かりもなさそうなチェックポイントが出題されるようになりました。大体の進んだ距離と登山道の形から推測はできるものの、確からしさに欠ける回答しかできずにお手上げの状態でした。そうこうしていると、講師の神戸さんが「(地図を指して)この等高線の窪みが(道の脇を指して)この谷ですね」と解説して下さいました。改めて地図と地形を照らし合わせると確かにその通りで、こんな細かいところまで見ているのかと驚かされました。さらに先に進みつつ、先輩方の解説を伺いながら地図と周りに見える地形をよくよく見比べると、まさに地図の等高線の特徴に対応するようにして谷があり、そして、尾根がありました。これまで何となく眺めていた地図からそんなことまで分かるのかと関心しきりで、目から鱗でした。地図は見るものと思っていましたが、読むものだと気づかされた瞬間でした。まさに読図。読図を極めた人が読めば、そこにどんな地形があるのか、どんな風景が広がるのかがきっと手に取るように分かるのでしょう。電車マニアの中には路線図を見て楽しむツウな方がいらっしゃるようですが、きっと、等高線を見て楽しむ山岳地図マニアの方もいるのだろう(登ったほうが楽しいのに)とどうでも良いことを想像しつつ、読図の面白さを感じながら頂上まで登っていきました。　山行の後半は地図に表示されていない武田道に入って、地図上でどこを進んでいるのかを確かめながら下山していきました。何度か立ち止まって地図と周りの地形を見比べて行くうちに、自分が今見ている谷や尾根が地図上のどこに対応するかが何となく分かるようになり、現在地を把握できるようになっていきました。そうなれば、次のチェックポイントの地形を地図から予め想像して、実際に進んで正解を確認しに行くというように楽しみ方が変わっていきました。しかし、等高線から谷や尾根などの特徴を見つけても実際には無数にある谷や尾根うちの一つでしかないのでチェックポイントを見逃してしまいがちでしたし、実際の見え方を想像するのは難しいと感じました。何度も練習を重ねて少しずつ想像と実際のズレを合わせていく必要があると感じました。

今回の登山教室で地図に対する考え方を変える良い機会となりました。また、地図を読むということの面白さに気づけたのもよい経験となりました。雪山にせよ緊急時にせよ読図は必要なスキルだと思うので、これからの登山では意識して地図を読んで、実際の見え方と照らし合わせるという作業を反復して取り組んでいきたいです。今回は新しい発見のあった有意義な例会となりました。講師の神戸さんや一緒に参加された方々と春の晴天に感謝します。(藤本)

(ﾘｰﾀﾞｰ所見)後半の表記がない場所での現在地把握は皆さん苦労したと思う。ともあれコンパスの使い方、地形と地図の照合を繰り返し練習ができて私もうれしく思います。

読図山行大変楽しませてもらいました。 今回地図を見ながら・・・使いながらの登山を経験して登山の奥深さにワクワクしながら歩いてました。とにかく時間が短く感じ、ポイントごと回りより遅れがちでしたが納得いくまで～がいけなかったのかな。(江嵜)

猿投山頂上にて

確認
(ﾘｰﾀﾞｰ)
神戸 16/03/20

作成
(報告者)
神戸 16/03/20